

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成28年12月21日
【事業年度】	第58期（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）
【会社名】	呉羽観光株式会社
【英訳名】	Kureha Sightseeing Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 新木 富士雄
【本店の所在の場所】	富山県富山市三熊19番地2号
【電話番号】	富山（076）434-2100（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 大庭正幸
【最寄りの連絡場所】	富山県富山市三熊19番地2号
【電話番号】	富山（076）434-2100（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 大庭正幸
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	平成24年 9月	平成25年 9月	平成26年 9月	平成27年 9月	平成28年 9月
売上高（営業収入）（千円）	697,390	712,846	724,386	739,963	750,398
経常利益（千円）	6,939	20,920	9,840	13,125	8,081
当期純利益又は当期純損失（千円）	7,665	18,875	6,793	11,720	4,522
持分法を適用した場合の投資利益（千円）	-	-	-	-	-
資本金（千円）	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000
発行済株式総数（株）	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000
純資産額（千円）	676,113	710,259	719,879	738,538	730,266
総資産額（千円）	3,616,794	3,639,985	3,662,820	3,655,329	3,627,995
1株当たり純資産額（円）	75,123	78,917	79,986	82,059	81,140
1株当たり配当額 （内1株当たり中間配当額）（円）	- （-）	- （-）	- （-）	- （-）	- （-）
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失（円）	851	2,097	754	1,302	502
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率（%）	18.7	19.5	19.7	20.2	20.1
自己資本利益率（%）	1.1	2.7	0.9	1.6	0.6
株価収益率（倍）	-	-	-	-	-
配当性向（%）	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー（千円）	22,896	62,071	51,967	25,804	50,741
投資活動によるキャッシュ・フロー（千円）	19,975	9,897	35,906	29,809	46,354
財務活動によるキャッシュ・フロー（千円）	-	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末 残高（千円）	206,782	258,955	275,017	271,011	275,399
従業員数 （外、平均臨時雇用者数）（人）	42 (63)	37 (63)	42 (57)	43 (61)	45 (59)

（注）1．当社は連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載をしておりません。

2．売上高には消費税等は含まれておりません。

3．潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

昭和34年11月	ゴルフ場等の経営を目的として、資本金150,000千円をもって設立
昭和35年4月	増資により資本金300,000千円になる
昭和35年10月	18ホールズのゴルフ場、呉羽カントリークラブを開場
昭和38年6月	増資により資本金450,000千円になる
昭和47年7月	9ホール増設 27ホールズになる
昭和50年10月	9ホール増設 36ホールズになる

## 3【事業の内容】

当社の主な事業はゴルフ場の経営であり、当社の一定株数以上の株主及び会社の定める保証金の納入者をもって呉羽カントリークラブを組織し、会員制を採用しています。即ち、法人会員（株式12株以上所有する法人）、個人会員（株式6株以上所有する個人）、平日会員（株式3株以上所有する個人）、保証金会員（法人保証金会員、個人保証金会員、平日保証金会員、家族保証金会員）に分け、他にビジターの入場も許可しております。

ゴルフ場としては、36ホールズのゴルフ場及びクラブハウスを建設し、クラブ会員及び会員紹介者の使用に供しています。又、芝草に関する専門的なメンテナンス技術を活かす関連事業を環境緑化部にて行なっております。

その他、将来の計画として、観光ホテル、遊園地、運動場等の健全なレクリエーション施設を建設し、観光客の誘致によって、地方経済文化の発展に寄与せんとするものであります。

### (イ) 経営組織の概要



### (ロ) クラブ組織の概要



#### 4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

平成28年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
45人(59人)	45才8ヵ月	13年5ヵ月	3,662,967円

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はして  
りません。

##### (2) 労働組合の状況

該当事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当期のわが国経済は、大胆な経済財政政策の下、雇用・所得環境が改善し、原油価格の低下等により緩やかな回復基調が持続しておりました。しかしながら、海外経済の先行き不透明感から、国内経済減速への懸念が強まっています。

当業界におきましては、少子高齢化社会の進行と同時にゴルフ人口が減少し、団塊の世代を中心としたシニア層のプレーニーズに大きく依存している状況です。ゴルフ場の供給過剰と低価格傾向が継続するとともにセルフプレー化が加速し、キャディ不足が常態化するなど依然として厳しい経営環境が続いております。若年層や女性ゴルファーの育成・開拓による新たな需要創出ならびにキャディの絶対数確保と育成が喫緊の課題となっております。

当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、種類別の業績を記載していません。

当期の業績を種類別に見ますと次のとおりであります。

会員収入におきましては、名義登録料が減ったことにより、売上高は前期に比し2,707千円(1.9%)減の140,546千円となりました。

ゴルフ場収入におきましては、暖冬の影響で冬季間(12月~3月)の営業日数が増えたことにより、当事業年度の入場者数は44,916名で前期に比し1,273名(2.9%)の増となりました。売上高は前期に比し11,837千円(2.2%)増の547,135千円となりました。

食堂等収入におきましては、入場者数が1,273名増えたことに伴い、売上高は前期に比し1,304千円(2.1%)増の62,716千円となりました。

この結果、営業収入は前期に比し10,434千円(1.4%)増の750,398千円となりました。他方営業費用は、徹底したコスト削減など合理化を進めましたが、修繕維持費の増加、入場者増による費用の増加等により、前期に比し17,365千円(2.4%)増の748,088千円となり、営業利益は前期に比し6,930千円(75.0%)減の2,310千円、営業外収益6,515千円、営業外費用743千円を加えて、経常利益は前期に比し5,043千円(38.4%)減の8,081千円、当期純利益は前期に比し7,197千円(61.4%)減の4,522千円となりました。

#### (2)キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、営業活動により50,741千円増加し、投資活動に46,354千円支出した結果、前事業年度末に比べ4,387千円増加し、当事業年度末残高は275,399千円(前事業年度末比1.6%増)となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において、営業活動により得られた資金は50,741千円(前事業年度末比24,937千円増)となりました。これは主に税引前当期純利益7,659千円、固定資産の減価償却費46,205千円、退職給付引当金の増加8,810千円、売上債権の減少14,795千円、仕入債務の減少5,285千円、預り保証金の減少12,150千円等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において、投資活動に支出した資金は46,354千円(前事業年度末比16,544千円増)となりました。これは定期預金の預入20,000千円、定期預金の払戻20,000千円、有形固定資産の取得48,107千円、投資有価証券の取得9,840千円、投資有価証券の売却10,368千円等によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動を行っていないため該当事項はありません。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 販売実績

種別	第58期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	前年同期比(%)
会員		
年会費等(千円)	103,496	100.4
名義登録料(千円)	37,050	92.2
小計(千円)	140,546	98.1
ゴルフ場		
グリーンフィ(千円)	114,685	103.4
キャディフィ(千円)	233,104	103.5
附帯収入(千円)	199,345	100.1
小計(千円)	547,135	102.2
食堂等		
食堂収入(千円)	37,415	101.4
売店収入(千円)	25,301	103.2
小計(千円)	62,716	102.1
合計(千円)	750,398	101.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
 3. 当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。

### (2) 入場者実績

区分別	第58期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	前年同期比(%)
メンバー(人)	16,604	106.1
ビジター(人)	28,312	101.2
合計(人)	44,916	102.9

(3) 主要料金表

区分	金額(円)
年会費	
法人・個人会員	48,000
平日・家族会員	30,000
ロッカーフィ(年間)	12,000
名義登録料	
法人会員	300,000
個人会員	500,000
平日会員	250,000
家族会員	200,000
グリーンフィ	
メンバーグリーンフィ	500
ビジターグリーンフィ	
平日	12,000
土曜	17,000
日・祝日	17,000
キャディフィ	4,000

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

高齢化社会が進み国民の健康への関心が高まるなかで、生涯スポーツを通して明るく楽しい人的交流の場を提供し、地域活性化に貢献してまいります。

当クラブとしましてはメンバーシップの矜持を保ち、会員様が安心快適にクラブライフを享受できる豊かなクラブ造りを目指す一方、さらなる経営の健全化に向けて社員一同総力を傾注してまいり所存です。

株主の皆さまならびに会員の皆さまには、今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### 4【事業等のリスク】

当社の営業成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性のある事項には、次のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末日（平成28年9月30日）現在において判断したものであります。

##### シニアプレーヤーの問題点

現在、ゴルフ業界は団塊の世代を中心としたシニア層に支えられている所が多く見られます。ここ数年後にはこの世代のプレー回数が少なくなり、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。ゴルフの活性化を図るため、プレーヤーのニーズに答え、女性プレーヤーの拡大、ジュニア育成及び会員の若返りが急務であり、これらがスムーズに実行されなかった場合、業績と財政に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### 保証金返還について

日本の経済は政府の経済政策により、雇用・所得環境が改善するなど緩やかな回復基調が持続しております。しかしながら、海外経済の先行き不透明感から、国内経済減速への懸念が強まっています。また、個人消費にも依然として停滞が見られる中、当ゴルフ業界におきましても会員権の需要が少なく会員権相場も低迷しております。高齢等によりプレーをされなくなった会員からの保証金返還請求が増えつつあり、今後これらの返還請求が一度にあった場合、自己資金が不足する可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

#### 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 財政状態の分析

###### (流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は、342,656千円（前事業年度末350,796千円）となり、8,139千円減少しました。主な要因は現金及び預金の増加4,387千円、営業未収入金の減少14,795千円、貯蔵品の増加1,071千円等によるものであります。

###### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は3,285,338千円（前事業年度末3,304,533千円）となり、19,195千円減少しました。主な要因は有形固定資産の取得49,243千円、減価償却費46,205千円（有形固定資産45,796千円、無形固定資産408千円）、投資有価証券の減少20,623千円等によるものであります。

###### (流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は106,794千円（前事業年度末116,435千円）となり、9,641千円減少しました。主な要因は未払金の減少9,996千円、未払法人税等の増加4,908千円、預り金の減少1,779千円等によるものであります。

###### (固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は、2,790,934千円（前事業年度末2,800,356千円）となり、9,421千円減少しました。主な要因は預り保証金の減少12,150千円、退職給付引当金の増加8,810千円、繰延税金負債の減少6,081千円によるものであります。

###### (純資産の部)

当事業年度末における純資産の残高は730,266千円（前事業年度末738,538千円）となり、8,271千円減少しました。この要因は繰越利益剰余金の増加4,522千円、その他有価証券評価差額金の減少12,794千円によるものであります。

## (2) 経営成績の分析

### (売上高) (営業収入)

売上高につきましては、会員収入は名義登録料が減少したことにより、前事業年度に比し2,707千円(1.9%)の減収、ゴルフ場収入では暖冬の影響で冬季間(12月~3月)の営業日数が増えたことにより、入場者数が1,273名増加し11,837千円(2.2%)の増収、食堂等収入は1,304千円(2.1%)の増収、この結果営業収入は前事業年度に比し10,434千円(1.4%)増収の750,398千円となりました。

### (営業費用)

営業費用につきましては、徹底したコスト削減など合理化を進めましたが、修繕維持費の増、入場者増に伴う費用の増加もあり前事業年度に比し17,365千円(2.4%)増の748,088千円となりました。

### (営業利益)

営業利益につきましては、営業収入は10,434千円増の750,398千円、営業費用は17,365千円増の748,088千円、この結果、営業利益は前事業年度9,240千円に比し6,930千円減の2,310千円となりました。

### (経常利益)

経常利益につきましては、営業利益2,310千円に営業外収益6,515千円、営業外費用743千円を加えて前事業年度13,125千円に比し5,043千円減の8,081千円となりました。

### (当期純利益)

当期純利益につきましては、経常利益8,081千円、税引前当期純利益7,659千円に、法人税、住民税及び事業税3,136千円を含めて、前事業年度当期純利益11,720千円から7,197千円減の当期純利益4,522千円となりました。

## (3) キャッシュ・フローの分析

当事業年度におけるキャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当期の設備投資は、維持更新等を中心に49百万円実施いたしました。

主な投資は、建物2百万円、構築物35百万円（イノシシ防護フェンス、コース内排水設備及びカート通路）、車両運搬具5百万円（乗用カート他）、工具、器具及び備品4百万円等であります。

（注） 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社の主要な設備は、以下のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構築物 (千円)	コース (千円)	土地 (千円) (面積千㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (富山県富山市)	ゴルフ場	531,338	963,151	1,411,887 (1,302) 〔27〕	297,853	3,204,230	45 (59)

（注）1．帳簿価額のその他の内訳は、機械及び装置28,808千円、車両運搬具17,395千円、工具、器具及び備品89,838千円、立木161,810千円、であります。なお上記金額には消費税等は含まれておりません。

2．土地の〔 〕は、貸借している土地の面積で外書であります。

3．従業員数の（ ）は、平均臨時従業員数で外書であります。

4．当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000
計	12,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年12月21日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,000	9,000	該当なし	当社は単元株制度を 採用しておりません
計	9,000	9,000	-	-

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
昭和38年6月4日 (注)	3,000	9,000	150,000	450,000	-	7,500

(注) 有償、株主割当(2株に対し1株の割)

発行価格1株につき50,000円

資本組入額 150,000千円

( 6 ) 【所有者別状況】

平成28年9月30日現在

区分	株式の状況							計	端株の状況
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	3	5	-	112	-	-	998	1,118	-
所有株式数(株)	72	279	-	2,699	-	-	5,950	9,000	-
所有株式数の割合(%)	0.8	3.1	-	30.0	-	-	66.1	100.0	-

( 7 ) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
北陸電力株式会社	富山市牛島町15-1	360	4.0
株式会社北陸銀行	富山市堤町通り1-2-26	150	1.7
北日本放送株式会社	富山市牛島町10-18	120	1.3
伏木海陸運送株式会社	高岡市伏木湊町5-1	113	1.2
Y K K 株式会社	東京都千代田区神田和泉町1	96	1.1
立山科学工業株式会社	富山市下番30	78	0.9
富山地方鉄道株式会社	富山市桜町1-1-36	75	0.8
株式会社不二越	富山市不二越本町1-1-1	60	0.7
富山通運株式会社	富山市八町3309	54	0.6
株式会社富山第一銀行	富山市西町5-1	51	0.6
計	-	1,157	12.9

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,000	9,000	-
端株	-	-	-
発行済株式総数	9,000	-	-
総株主の議決権	-	9,000	-

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

( 1 ) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 2 ) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

( 4 ) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

### 3【配当政策】

当社の株主は一定の条件の下でその所有株式数に応じて、会社が経営する呉羽カントリークラブの会員権を取得する資格を有しておりますが、経営努力に基づくゴルフ場施設及びサービスの内容の充実により株主に利益還元を図る基本方針のもと、利益配当を行っておりません。なお、利益留保についてはゴルフ場施設の充実に活用することとしています。

なお、当社の剰余金配当の決定機関は、株主総会であります。

### 4【株価の推移】

当社の株式は非上場でありますので、記載事項はありません。

5【役員の状況】

男性22名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役社長 (代表取締役)		新木 富士雄	昭和12年2月21日生	平成11年6月 北陸電力株式会社代表取締役社長(現在名誉顧問) 平成11年12月 当社取締役 平成26年12月 当社取締役社長(現在)	(注)3	-
専務取締役	支配人	若宮 春樹	昭和27年10月27日生	昭和50年5月 当社入社 平成13年6月 当社支配人 平成13年12月 当社取締役 平成21年12月 当社常務取締役支配人 平成28年12月 当社専務取締役支配人(現在)	(注)3	6
取締役		渡辺 信安 (注)1	大正14年1月1日生	平成3年7月 株式会社リッチェル代表取締役会長 平成4年12月 当社取締役(現在) 平成14年3月 株式会社リッチェル代表取締役会長兼社長 平成15年6月 株式会社リッチェル代表取締役会長(現在名誉会長)	(注)3	-
取締役		山口 輝男 (注)1	昭和6年2月11日生	平成9年12月 北酸株式会社取締役会長(現在相談役) 平成12年12月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役		水口 昭一郎 (注)1	昭和9年6月16日生	昭和54年7月 立山科学工業株式会社代表取締役社長(現在) 平成12年12月 当社取締役(現在)	(注)3	6
取締役		横山 哲夫 (注)1	昭和21年7月20日生	平成12年3月 北日本放送株式会社代表取締役社長(現在) 平成12年12月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役		犬島 伸一郎 (注)1	昭和15年3月20日生	平成10年6月 株式会社北陸銀行取締役頭取 平成15年6月 財団法人北陸経済研究所理事長 平成15年12月 呉羽カントリークラブ理事長(現在) 平成15年12月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役		金岡 純二 (注)1	昭和13年11月24日生	昭和56年3月 株式会社富山相互銀行取締役社長 昭和58年3月 当社監査役 平成元年2月 株式会社富山第一銀行取締役頭取(現在代表取締役会長) 平成16年12月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役		高木 繁雄 (注)1	昭和23年4月2日生	平成14年6月 株式会社北陸銀行取締役頭取(現在特別参与) 平成16年9月 株式会社ほくほくフィナンシャルグループ代表取締役社長 平成16年12月 当社取締役(現在) 平成25年11月 富山商工会議所会頭(現在)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役		森 政雄 (注) 1	昭和5年8月17日生	昭和44年5月 平成16年12月 平成17年12月	リードケミカル株式会社代表取締役社長(現在代表取締役会長) 当社監査役 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		中井 敏郎 (注) 1	昭和19年10月20日生	昭和62年7月 平成20年12月	東亜薬品株式会社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	6
取締役		本間 博夫 (注) 1	昭和20年7月29日生	平成21年2月 平成22年12月	株式会社不二越代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		板倉 均 (注) 1	昭和24年6月15日生	平成24年6月 平成26年12月	株式会社北日本新聞社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		山田 岩男 (注) 1	昭和26年2月27日生	平成21年6月 平成26年12月	富山電気ビルディング株式会社取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	6
取締役		三鍋 光昭 (注) 1	昭和28年9月1日生	平成27年6月 平成27年12月	北陸電気工事株式会社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		中西 修 (注) 1	昭和31年3月24日生	平成27年6月 平成27年12月	富山テレビ放送株式会社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		川西 邦夫 (注) 1	昭和27年8月27日生	平成28年9月 平成28年12月	伏木海陸運送株式会社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		宮村 久夫 (注) 1	昭和30年12月6日生	平成25年4月 平成28年12月	YKK株式会社執行役員財務・経理部長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
取締役		品川 祐一郎 (注) 1	昭和45年8月28日生	平成20年2月 平成28年12月	富山トヨタ自動車株式会社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注) 3	-
監査役		金森 藤平 (注) 2	昭和16年3月11日生	昭和61年6月 平成15年12月	金森藤平商事株式会社取締役社長(現在常任顧問) 当社監査役(現在)	(注) 4	6
監査役		齊藤 栄吉 (注) 2	昭和30年9月4日生	平成21年6月 平成23年12月	株式会社富山銀行代表取締役頭取(現在) 当社監査役(現在)	(注) 4	-
監査役		辻川 徹 (注) 2	昭和29年7月10日生	平成27年6月 平成27年12月	富山地方鉄道株式会社代表取締役社長(現在) 当社監査役(現在)	(注) 4	-
計							30

- (注) 1. 社外取締役であります。  
 2. 社外監査役であります。  
 3. 平成28年12月20日開催の定時株主総会の終結の時から2年間  
 4. 平成27年12月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値の向上を図り、株主及び会員に対して経営の透明性、信頼性を高めるため、より健全な経営体制の確立に努めております。

当社は株主を主たる会員制のゴルフ場、呉羽カントリークラブを経営しており、経営努力に基づくゴルフ場施設、及びサービスの内容の充実により、利益還元を図ることを基本方針に掲げております。

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、この基本方針の実現を目的としており、ゴルフ場経営の変化に迅速に対応できる組織体制造りと、内部統制体制の構築に努めております。また、会員で組織する理事会と協調し、会員からの意見も経営に反映させており、同時に、会社の経営状況を会員に開示して、経営の透明化を図っております。

#### (2) 会社の機関について

##### 会社の機関について

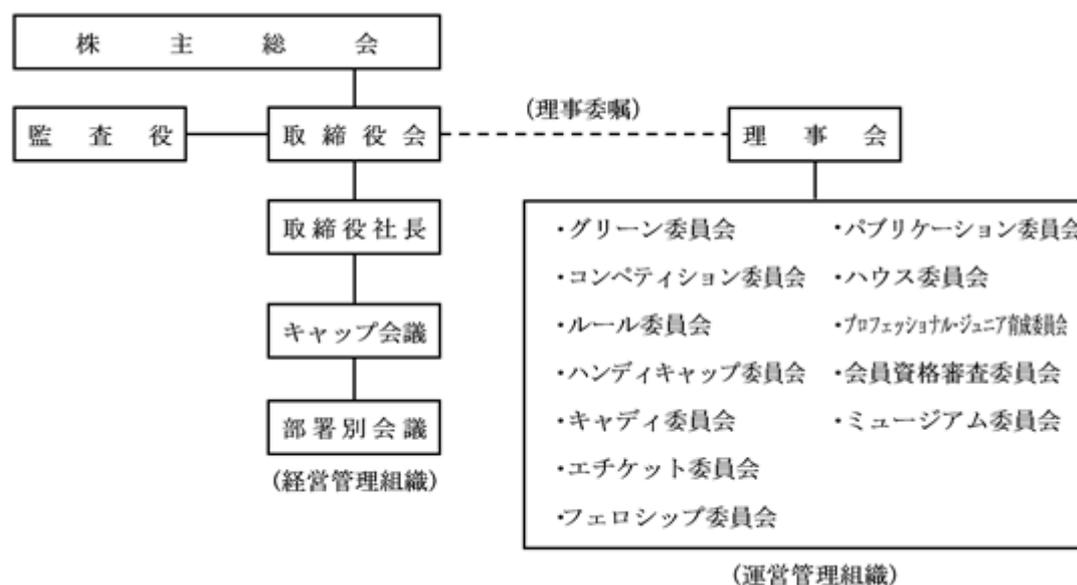
当社は監査役制度を採用しており、平成28年12月21日現在、取締役は19名（うち社外取締役17名）、監査役は3名（社外監査役）であります。監査役は取締役会及び重要な会議に出席し意見を述べるとともに、経営方針の決定経過及び業務執行を監視しております。

##### 会社の機関の内容及び内部統制システム整備の状況

当社の内部統制システムといたしましては、経営管理は理事会からの意見も取り入れ、取締役会を中心に常任会及び営業推進会議で営業方針を試案し、取締役会の承認後、キャップ会議で具体的対策を決定し実行いたします。

ゴルフ場の運営管理は理事会を意思決定機関として、取締役会と協調しながら諮問機関に12の委員会を設置し、ゴルフ場運営が円滑に図れるよう実施いたしております。

当社の機関及び組織体制は次の通りです。



**監査役監査の状況**

当社の監査役は3名であり、取締役会及び重要な会議に出席し、経営方針の決定経過及び業務執行を監視するとともに提言、助言を行い適正な取締役会運営の遂行や、経営全体に対する監視を行っています。

当社と当社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的关系又は取引関係、その他の利害関係の概要  
 当社の社外取締役（17名）と社外監査役（3名）が保有する当社の株式の保有状況は「役員状況」に記載の通りであります。会員登録している社外取締役、社外監査役は、他の会員と同一条件の保証金を預託しております。当社との個人取引、社外取締役及び社外監査役が取締役等に就任している会社との取引につきましても、規定料金及び一般取引先の取引と同一条件であり、当社との重要な利害関係はありません。

**会計監査の状況**

当社の会計監査は新日本有限責任監査法人と監査契約を締結いたしております。当事業年度において業務を執行した公認会計士は西川正房、安田康宏の2名であり、会計監査業務に係る補助者は公認会計士1名であります。

**(3) リスク管理体制の整備状況**

当社のリスク管理体制としては、取締役会と理事会が中心となり、社外の見識者からの意見も聞き、経営管理、運営管理、その他業務全体のリスクに迅速に対応できるような体制の強化に努め、会員が快適なクラブライフを堪能して頂けるよう、経営の更なる健全化に努めております。

**(4) 役員報酬**

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する報酬は次の通りであります。

取締役 22,440千円（社内取締役3名）  
 監査役 - 千円  
 （注）株主総会決議による報酬 取締役 年額 30,000千円以内  
 監査役 年額 5,000千円以内

**(5) 取締役の定数**

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

**(6) 取締役選任決議の決議要件**

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席した株主総会で、その議決権の過半数をもって行う旨定款で定めております。また取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

**(2) 【監査報酬の内容等】**

**【監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 （千円）	非監査業務に基づく報酬 （千円）	監査証明業務に基づく報酬 （千円）	非監査業務に基づく報酬 （千円）
3,000	-	3,000	-

**【その他重要な報酬の内容】**

該当事項はありません。

**【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】**

該当事項はありません。

**【監査報酬の決定方針】**

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（自平成27年10月1日 至平成28年9月30日）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4. 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、監査法人及び専門的知識、情報を有する団体等が行う研修会、説明会へ参加しております。

## 1【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当事業年度 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	281,011	285,399
営業未収入金	60,467	45,671
貯蔵品	8,126	9,198
その他	1,190	2,387
流動資産合計	350,796	342,656
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,351,404	1,352,520
減価償却累計額	1,018,632	1,032,130
建物(純額)	332,771	320,389
構築物	1,441,868	1,476,964
減価償却累計額	1,248,481	1,266,016
構築物(純額)	193,387	210,948
機械及び装置	411,025	411,660
減価償却累計額	378,383	382,851
機械及び装置(純額)	32,642	28,808
車両運搬具	127,779	132,099
減価償却累計額	110,326	114,704
車両運搬具(純額)	17,453	17,395
工具、器具及び備品	282,557	284,569
減価償却累計額	194,307	194,730
工具、器具及び備品(純額)	88,249	89,838
コース	962,780	963,151
土地	1,411,887	1,411,887
立木	161,810	161,810
建設仮勘定	866	-
有形固定資産合計	3,201,849	3,204,230
無形固定資産		
電話加入権	331	331
ソフトウェア	933	524
無形固定資産合計	1,264	856
投資その他の資産		
投資有価証券	100,236	79,612
長期前払費用	1,182	639
投資その他の資産合計	101,419	80,251
固定資産合計	3,304,533	3,285,338
資産合計	3,655,329	3,627,995

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当事業年度 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	63,336	53,339
未払費用	33,808	31,034
未払法人税等	1,167	6,076
預り金	18,122	16,343
流動負債合計	116,435	106,794
固定負債		
保証金	1,561,400	1,555,900
株主、役員又は従業員からの保証金	1,141,125	1,134,475
繰延税金負債	6,860	779
退職給付引当金	71,259	80,069
役員退職慰労引当金	19,710	19,710
固定負債合計	2,800,356	2,790,934
負債合計	2,916,791	2,897,728
純資産の部		
株主資本		
資本金	450,000	450,000
資本剰余金		
資本準備金	7,500	7,500
資本剰余金合計	7,500	7,500
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	266,459	270,982
利益剰余金合計	266,459	270,982
株主資本合計	723,959	728,482
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,579	1,784
評価・換算差額等合計	14,579	1,784
純資産合計	738,538	730,266
負債純資産合計	3,655,329	3,627,995

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
営業収入		
会員収入	143,253	140,546
ゴルフ場収入	535,297	547,135
食堂等収入	61,412	62,716
営業収入合計	739,963	750,398
営業費用		
ハウスおよび一般管理費		
役員報酬	21,600	22,440
給料及び手当	93,861	98,332
福利厚生費	20,162	20,851
退職給付引当金繰入額	17,836	16,356
役員退職慰労引当金繰入額	87	-
キャディ費	166,364	172,132
旅費及び交通費	4,760	5,074
通信費	5,221	4,946
事務用消耗品費	7,793	7,867
修繕維持費	19,854	19,898
水道光熱費	21,814	20,851
減価償却費	25,480	25,060
広告宣伝費	10,832	10,207
諸手数料	12,182	13,517
食堂等諸費	28,281	30,244
公租公課	35,391	36,456
競技費	17,533	18,596
雑費	33,084	32,099
ハウスおよび一般管理費合計	542,141	554,934
コース管理費		
給料及び手当	87,765	92,165
福利厚生費	17,075	17,400
補修改良費	15,514	14,563
消耗品費	35,443	34,033
減価償却費	19,195	21,144
雑費	13,587	13,845
コース管理費合計	188,581	193,154
営業費用合計	730,723	748,088
営業利益	9,240	2,310

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	12	9
有価証券利息	2,068	1,568
受取配当金	1,219	1,330
ゴルフ場利用税特別徴収取扱報償金	630	647
受取保険料	-	2,500
雑収入	562	458
営業外収益合計	4,493	6,515
<b>営業外費用</b>		
長期前払費用償却	608	543
雑損失	-	200
営業外費用合計	608	743
経常利益	13,125	8,081
特別損失		
固定資産除却損	1,182	1,422
特別損失合計	182	422
税引前当期純利益	12,942	7,659
法人税、住民税及び事業税	1,222	3,136
法人税等合計	1,222	3,136
当期純利益	11,720	4,522

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	450,000	7,500	254,738	712,238	7,640	719,879
当期変動額						
当期純利益			11,720	11,720		11,720
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）					6,938	6,938
当期変動額合計	-	-	11,720	11,720	6,938	18,658
当期末残高	450,000	7,500	266,459	723,959	14,579	738,538

当事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	450,000	7,500	266,459	723,959	14,579	738,538
当期変動額						
当期純利益			4,522	4,522		4,522
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）					12,794	12,794
当期変動額合計	-	-	4,522	4,522	12,794	8,271
当期末残高	450,000	7,500	270,982	728,482	1,784	730,266

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	12,942	7,659
減価償却費	44,675	46,205
退職給付引当金の増減額（は減少）	6,130	8,810
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	87	-
受取利息及び受取配当金	1,232	2,909
固定資産除却損	134	189
売上債権の増減額（は増加）	5,280	14,795
たな卸資産の増減額（は増加）	2,583	1,071
仕入債務の増減額（は減少）	6,178	5,285
預り保証金の増減額（は減少）	13,100	12,150
未払消費税等の増減額（は減少）	2,040	7,755
その他	4,066	635
小計	26,475	49,123
利息及び配当金の受取額	1,232	2,909
法人税等の支払額	1,903	1,291
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>25,804</b>	<b>50,741</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	20,000	20,000
定期預金の払戻による収入	20,000	20,000
有形固定資産の取得による支出	29,452	48,107
無形固定資産の取得による支出	352	-
投資有価証券の取得による支出	5	9,840
投資有価証券の売却による収入	-	10,368
その他	-	1,225
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>29,809</b>	<b>46,354</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	4,005	4,387
現金及び現金同等物の期首残高	275,017	271,011
現金及び現金同等物の期末残高	271,011	275,399

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

なお、主な資産の耐用年数は次のとおりである。

建物 8年～47年

構築物 3年～50年

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更している。なお、これによる当事業年度の損益への影響額は軽微である。

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

4. 引当金の計上基準

(1) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る期末自己都合要支給額に平均残存勤務期間に対応する割引率及び昇給率を乗じた額を退職給付債務とする簡便法を適用しております。

(2) 役員退職慰労引当金

常勤役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

(1) 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

- (分類1) から (分類5) に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い
- (分類2) 及び (分類3) に係る分類の要件
- (分類2) に該当する企業におけるスケジュールリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い
- (分類3) に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い
- (分類4) に係る分類の要件を満たす企業が (分類2) 又は (分類3) に該当する場合の取扱い

(2) 適用予定日

平成29年9月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当事業年度の作成時において評価中であります。

(損益計算書関係)

1. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
建物	- 千円	53千円
車両運搬具	-	52
工具、器具及び備品	134	83
除却費用	47	233
合計	182	422

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)

発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,000	-	-	9,000
計	9,000	-	-	9,000

当事業年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,000	-	-	9,000
計	9,000	-	-	9,000

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	281,011千円	285,399千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	10,000	10,000
現金及び現金同等物	271,011	275,399

2. 重要な非資金取引の内容

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、基本として自己資金内での資金計画を行なっております。資金運用につきましては安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引を行なわない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

当社の営業債権である営業未収入金は、顧客の信用リスクを内包しております。当該リスクに関しては、顧客ごとの期日管理、残高管理を行なうと共に財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は主に株式であり、市場価格の変動リスクを内包しております。当該リスクに関しては、定期的に時価や発行体企業の財務状況等を把握しております。

営業債務である未払金、未払費用は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

保証金、株主、役員又は従業員からの保証金は会員からの預り金であり、クラブ規約に基づき償還請求された場合には返済義務があることから流動性リスクを内包しております。当該リスクに関しては、資金計画を作成、更新すると共に、一定の手許流動性を維持することなどにより管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定において変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前事業年度(平成27年9月30日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	281,011	281,011	-
(2) 営業未収入金	60,467	60,467	-
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	95,236	95,236	-
資産計	436,715	436,715	-
(1) 未払金	63,336	63,336	-
(2) 未払費用	33,808	33,808	-
負債計	97,145	97,145	-

当事業年度(平成28年9月30日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	285,399	285,399	-
(2) 営業未収入金	45,671	45,671	-
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	74,612	74,612	-
資産計	405,683	405,683	-
(1) 未払金	53,339	53,339	-
(2) 未払費用	31,034	31,034	-
負債計	84,374	84,374	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 営業未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格又は金融機関から提示された価格によっております。また保有目的ごとの有価証券に関する事項については、(有価証券関係)注記を参照ください。

負債

(1) 未払金、(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

前事業年度(平成27年9月30日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式	5,000
資産計	5,000
保証金	1,561,400
株主、役員又は従業員からの保証金	1,141,125
負債計	2,702,525

当事業年度(平成28年9月30日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式	5,000
資産計	5,000
保証金	1,555,900
株主、役員又は従業員からの保証金	1,134,475
負債計	2,690,375

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。

保証金、株主、役員又は従業員からの保証金は、償還時期が予測不可能であり、キャッシュ・フローを合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、表には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成27年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内
現金及び預金	281,011
営業未収入金	60,467
合計	341,479

当事業年度(平成28年9月30日)

(単位:千円)

	1年以内
現金及び預金	285,399
営業未収入金	45,671
合計	331,070

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(平成27年9月30日)

(単位:千円)

	種 類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	46,417	27,978	18,439
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	36,150	30,963	5,187
	小計	82,568	58,941	23,626
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	12,668	14,855	2,186
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	12,668	14,855	2,186
合計		95,236	73,796	21,440

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額5,000千円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成28年9月30日)

(単位:千円)

	種 類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	20,907	14,598	6,308
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	9,214	5,911	3,302
	小計	30,121	20,509	9,611
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	22,026	28,235	6,208
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	22,465	23,303	838
	小計	44,491	51,538	7,047
合計		74,612	72,048	2,563

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額5,000千円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

（単位：千円）

種 類	売 却 額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	10,368	5	-
合計	10,368	5	-

3. 減損処理を行った有価証券

前事業年度（自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

当社は、デリバティブ取引を利用していないので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。また、当社は、複数事業主制度の厚生年金基金（中部ゴルフ場）に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、例外処理を採用している複数事業主制度に関して、当社の加入する中部ゴルフ場厚生年金基金は、加入員の減少と年金受給対象者の増加により基金運営が厳しさを増し、存続することは極めて困難との結論から、平成28年9月28日付けで基金の解散認可を受け現在清算手続きを進めております。また、前事業年度に最低責任準備金の一部5,000百万円を前納しておりますが、今後清算手続きが進行し最低責任準備金の返還が終了するまでに損失が生ずる可能性があります。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
退職給付引当金の期首残高	77,389千円	71,259千円
退職給付費用	17,836	16,356
退職給付の支払額	23,967	7,546
退職給付引当金の期末残高	71,259	80,069

(2) 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金との調整表

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当事業年度 (平成28年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	71,259千円	80,069千円
貸借対照表に計上された負債	71,259	80,069
退職給付引当金	71,259千円	80,069千円
貸借対照表に計上された負債	71,259	80,069

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前事業年度	17,836千円	当事業年度	16,356千円
----------------	-------	----------	-------	----------

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度（中部ゴルフ場）への要拠出額は、前事業年度9,847千円、当事業年度7,600千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況 (平成27年3月31日現在) (平成28年3月31日現在)

年金資産の額	7,387百万円	6,597百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	7,973	7,141
差引額	586	544

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

前事業年度(自 平成4年4月 至 平成27年8月)3.1%、当事業年度(自 平成4年4月 至 平成28年8月)3.1%であります。

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前事業年度904百万円、当事業年度829百万円)、不足金(前事業年度0百万円、当事業年度33百万円)及び別途積立金(当年度剰余金含む)(前事業年度318百万円、当事業年度318百万円)であります。本制度における過去勤務債務の償却期間は20年(前事業年度 残12年9月、当事業年度 残11年9月)の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当事業年度 (平成28年9月30日)
繰延税金資産		
賞与引当金	3,764	3,793
未払事業所税	1,357	1,266
未払事業税	275	1,126
退職給付引当金	22,802	24,341
役員退職慰労引当金	6,307	5,992
投資有価証券評価損	3,112	2,957
税務上の繰越欠損金	38,223	31,941
繰延税金資産小計	75,844	71,418
評価性引当額	75,844	71,418
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	6,860	779
繰延税金負債合計	6,860	779
繰延税金負債の純額	6,860	779

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当事業年度 (平成28年9月30日)
法定実効税率	35.3%	32.8%
(調整)		
住民税均等割	4.7	8.1
交際費等永久に損金に算入されない項目	9.4	11.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.6	2.9
評価性引当額の増減	35.7	7.7
その他	2.7	1.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.4	41.0

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.0%から平成28年10月1日に開始する事業年度及び平成29年10月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.6%に、平成30年10月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.4%となります。なお、この税率変更による影響は軽微であります。

## (持分法損益等)

該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高の中で、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)		当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	
1株当たり純資産額	82,059円	1株当たり純資産額	81,140円
1株当たり当期純利益	1,302円	1株当たり当期純利益	502円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日)	当事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)
当期純利益(千円)	11,720	4,522
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	11,720	4,522
普通株式の期中平均株式数(株)	9,000	9,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	其他有価証券	日本電信電話(株)	1,632	7,530
		北陸電力(株)	10,613	13,022
		(株)富山第一銀行	19,490	9,004
		(株)富山銀行	1,000	3,920
		(株)ほくほくフィナンシャルグループ	7,000	9,457
		富山ウエスト開発(株)	100	5,000
		小計	39,835	47,933
		計	39,835	47,933

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	其他有価証券	ノムラ日本株戦略ファンド	11,719,803	9,214
		ダイワ・J-REIT	13,008,042	9,018
		ダイワ・グローバルREIT	36,156,538	13,446
		小計	60,884,383	31,679
		計	60,884,383	31,679

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,351,404	2,363	1,247	1,352,520	1,032,130	14,691	320,389
構築物	1,441,868	35,589	493	1,476,964	1,266,016	18,028	210,948
機械及び装置	411,025	785	150	411,660	382,851	4,618	28,808
車両運搬具	127,779	5,570	1,250	132,099	114,704	5,565	17,395
工具、器具及び備品	282,557	4,565	2,554	284,569	194,730	2,893	89,838
コース	962,780	370	-	963,151	-	-	963,151
土地	1,411,887	-	-	1,411,887	-	-	1,411,887
立木	161,810	-	-	161,810	-	-	161,810
建設仮勘定	866	-	866	-	-	-	-
有形固定資産計	6,151,981	49,243	6,560	6,194,664	2,990,433	45,796	3,204,230
無形固定資産							
電話加入権	331	-	-	331	-	-	331
ソフトウェア	3,850	-	2,410	1,440	915	408	524
無形固定資産計	4,181	-	2,410	1,771	915	408	856
長期前払費用	12,782	-	2,337	10,444	9,805	543	639

(注) 当期増加額、減少額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	増加額	杉亭・柿亭トイレ改修	1,538千円
		避難小屋	825千円
構築物	増加額	イノシシ防護フェンス・門扉	22,157千円
		コース内排水設備	6,962千円
		コース内カート通路	5,482千円
機械及び装置	増加額	コース作業用機械	785千円
車両運搬具	増加額	乗用カート	2,625千円
		電動カート	2,945千円
工具、器具及び備品	増加額	パソコン	2,517千円
		雨具乾燥機	988千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
役員退職慰労引当金	19,710	-	-	-	19,710

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末（平成28年9月30日現在）における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

イ．現金及び預金

区分		金額（千円）
現金		2,643
預金	定期預金	10,000
	普通預金	272,755
計		285,399

ロ．営業未収入金

内訳	金額（千円）
入場者未精算金 （北陸カード他 253口）	34,920
年会費等未収金 （12口）	1,189
その他 （リードケミカル他 46口）	9,561
計	45,671

滞留状況

区分	金額（千円）
期首残高	60,467
発生高	717,795
回収高	732,591
期末残高	45,671
回収率（％） $\frac{\text{回収高}}{\text{期首残高} + \text{発生高}}$	94.1％
滞留期間（日） $\frac{(\text{期首残高} + \text{期末残高}) \div 2}{(\text{発生高} \div 12)} \times 30$	26.6日

（注） 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しているが、上記金額には消費税等が含まれている。

ハ．貯蔵品

内訳	金額(千円)
売店商品 (ゴルフ用品、その他)	5,117
肥料薬品 (ソリスト顆粒水和剤、その他)	3,955
その他 (ガソリン、その他)	126
計	9,198

ニ．保証金

1,555,900千円 会員からの預り保証金

ホ．株主、役員又は従業員からの保証金

1,134,475千円 会員からの預り保証金

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	該当規定なし
株券の種類	1株券 5株券 10株券 15株券 50株券
剰余金の配当の基準日	該当事項なし
1単元の株式数	該当事項なし
株式の名義書換え	
取扱場所	富山市三熊19番地2号 呉羽観光株式会社総務課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	該当事項なし
株主名簿管理人	”
取次所	”
買取手数料	”
公告掲載方法	富山市において発行する北日本新聞
株主に対する特典	3株以上の個人株主及び12株以上の法人株主は理事会の承認を得、且つ所定の保証金を支払って、呉羽カントリークラブの会員となり、同会運営のゴルフ場を使用することができます。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### 1．有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第57期）（自平成26年10月1日 至平成27年9月30日）平成27年12月25日北陸財務局長に提出

#### 2．半期報告書

第58期中（自平成27年10月1日 至平成28年3月31日）平成28年6月24日北陸財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成28年12月20日

呉羽観光株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西川 正房 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安田 康宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている呉羽観光株式会社の平成27年10月1日から平成28年9月30日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、呉羽観光株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。